

大学 ICT 推進協議会 平成 23 年度部会事業報告書

1 部 会

部会名称	学術・教育コンテンツ共有流通部会
担当理事	深澤 良彰
主 査	山田 恒夫

2 平成 23 年度の事業内容

月 日	事 業 内 容
2011 年	
5 月 28 日	第 1 回準備会 (NII)
9-10 月	第 2 回準備会 (メール審議)
11 月 21 日	第 1 回部会イベント (東京・秋葉原 UDX、e-Learning Awards フォーラム)
12 月 7 日	第 2 回部会イベント (福岡国際会議場、年次大会部会セッション) 第 1 回部会定例会議 (福岡国際会議場、AXIES 年次大会)
2012 年	
2 月 8 日	第 3 回部会イベント (東京国際交流館、「OUJ-GLOBE 国際セミナー」として共催)

3 上記事業内容の成果

1) 第 1 回部会イベント

e-Learning Awards 2011 フォーラム (2011/11/21-22、秋葉原 UDX)

日時 2011 年 11 月 21 日 (月) 講演会 13:40 - 14:30 意見交換会 10:10 - 11:10
場所 e-Learning Awards フォーラム会場 UDX Gallery および Gallery Next
〒101-0021 東京都千代田区外神田 4-14-1 秋葉原 UDX 4F
<http://www.udx.jp/gallery/index.html>

テーマ 「オープンコンテンツと有償コンテンツは共存できるか：学習コンテンツ共有流通の新たな枠組みに向けて」

10:10-11:10 の意見交換会には、現部会メンバーおよび関係団体のご代表、合わせて 13 名にご参集いただき、本部会の位置づけと事業について率直な意見の交換を行った。

続いて、部会の企画セッションとして、13:40 - 14:30、パネルディスカッション「オープンコンテンツと有償コンテンツは共存できるか：学習コンテンツ共有流通の新たな枠組みに向けて」を行い、AXIES および本部会の紹介をかねて、問題提起を行った。

開会挨拶に、AXIES 理事・深澤良彰先生 (早稲田大学理事)、パネリストとして、大学から、福原美三先生 (日本オープンコースウェアコンソーシアム事務局長・明治大学教授)、中嶋航一先生 (NPO 法人 CCC-TIES 事務局長・帝塚山大学教授)、出版社から三瓶 徹先生 (一般社団法人 日本電子出版協会事務局長) をお招きし、参加者も 100 名を超える方々 (登録者は 134 名) にご参集いただいた。

2) 第 2 回部会イベント

大学 ICT 推進協議会年次大会・企画セッション (学術・教育コンテンツ共有流通部会)

日時 2011年12月7日(水) 13:30-15:00

場所 福岡国際会議場 4F C/D会場

テーマ C2: 大学連携から見た学術・教育コンテンツの開発・蓄積・共有再利用

本部会の本年度2回目のイベントとして、2011年12月7日(水) 13:30-15:00、AXIES第1回年次大会において、企画セッション「C2:大学連携から見た学術・教育コンテンツの開発・蓄積・共有再利用」(福岡国際会議場 4F C/D会場)を開催した。

C2: 大学連携から見た学術・教育コンテンツの開発・蓄積・共有再利用

1. 逸村裕(筑波大学大学院図書館情報メディア研究科)「教材としての機関リポジトリコンテンツ」
2. 林敏浩(香川大学・e-Knowledge コンソーシアム四国事務局長)「四国の大学連携による『四国学』のためのe-Learning コンテンツ開発」
3. 大西淑雅・山口真之介(九州工業大学)「学習素材の共有と学習コンテンツの開発における課題」
4. 岡本敏雄(電気通信大学大学院・情報システム学研究科長・教授)「招待発表: ISO-SC36における協調技術の標準化動向について」

モデレータ・ディスカッサント: 山田恒夫(放送大学、主査)、山地一禎(国立情報学研究所)

引き続き、第1回部会定例会議を開催し、副査・運営委員の選出等を行った。

選任された副査・運営委員は以下の通り。なお、運営委員は今後の加入状況をみて追加する可能性があることも了承された。

副査	逸村 裕(筑波大学大学院・図書館情報メディア研究科・教授)
運営委員	井上 仁(九州大学情報基盤センター・准教授)
	大西淑雅(九州工業大学・e-ラーニング事業推進室・講師)
	重田勝介(東京大学)
	中嶋航一(帝塚山大学・教授、CC-TIES・理事・事務局長)
	中野美知子(早稲田大学・教授)
	林 敏浩(香川大学図書館・情報機構総合情報センター・教授)
	元木 環(京都大学・学術情報メディアセンター・助教、学内調整中)
	山地一禎(国立情報学研究所・准教授)

3) 第3回部会イベント

放送大学 GLOBE セミナー(共催)

日時 2012年2月8日(水) 10:00-17:00

場所 東京国際交流館/プラザ平成/国際交流会議場

テーマ 「クロスメディア時代の学習コンテンツ開発・流通・出版を考える」

2012年2月8日、放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター(CODE)国際連携プロジェクト、GLOBE(Global Learning Object Brokered Exchange)コンソーシアムと共催で、学習コンテンツ共有再利用流通に関する国際セミナーを開催した。

10:00-10:10	開会 Opening Remarks	放送大学理事長・白井克彦 Dr. Katsuhiko Shirai, Chairperson, the Foundation for the Open University of Japan
10:10-10:45	第1部「学習コンテンツ共有再利用の国際連携: GLOBE の貢献」	

	<p>Part 1: International Collaboration for Sharing and Reuse of Quality Learning Resources: Contributions of GLOBE 司会 Moderator : Tsuneo Yamada, Professor, OIJ</p>	
	<p>GLOBE の 9 年: 背景と系譜 9 years of GLOBE: Reflections</p>	<p>Tsuneo Yamada, OIJ Gerard L. Hanley, MERLOT</p>
	<p>再利用のための品質: 学習オブジェクトリポジトリのための方法論に向けて Quality for Reuse, towards a methodology for learning object repositories</p>	<p>Gilbert Paquette, LORNET</p>
	<p>GLOBE の現在: テクノロジー、サービス、統計 GLOBE Now: Technologies, Services and Statistics</p>	<p>Frans Van Assche, GLOBE Erik Duval, ARIADNE</p>
11:00-12:30	<p>第 2 部 特別セッション「公開教育資源と GLOBE: アジア・アフリカ諸国の視点」 Part 2: Special Session: OER and GLOBE: African and Asian Perspectives 司会 Moderator : Tsuneo Yamada, Professor, OIJ</p>	
	<p>招待講演: アジアにおける公開教育資源(OER): スナップショット [Invited Speech] OER in ASIA: A Snapshot</p>	<p>Gajaraj Dhanarajan, Wawasan Open University, Malaysia</p>
	<p>e-Learning と OER はアフリカの高等教育をいかに変革するか How e-Learning and OER Can Transform Higher Education in Africa</p>	<p>Neil Butcher, OER Africa, South Africa</p>
	<p>イスラエルにおける公開教育資源(OER) MAOR – Meta-data And Object Repository</p>	<p>Eli Shmueli, MEITAL, Israel</p>
	<p>アラブ諸国における公開教育資源(OER) Unlocking Learning Resources Residing in Institutions' Learning Management Systems</p>	<p>Jad Najjar, Al-Quds University, Palestine</p>
13:30-14:30	<p>第 3 部 「日本における学術・学習コンテンツの開発・流通・出版」 Part 3: Development, Distributions and e-Publishing of Academic/Educational Learning Content in Japan 司会 Moderator: Yoshimi Fukuhara, Professor, Meiji University, Japan</p>	
	<p>わが国の高等教育コンテンツ分野における共有再利用流通支援の枠組: NIME, OIJ-CODE and AXIES-csd The Japanese frameworks to support sharing/reuse/distribution of digital HE content: NIME, OIJ-CODE and AXIES-csd</p>	<p>放送大学・山田恒夫 Tsuneo Yamada, OIJ, Japan</p>
	<p>わが国における学術教育資源のための情報基盤整備: 国立情報学研究所の貢献 Information Infrastructure for Academic/Educational Resources in Japan: NII's contributions</p>	<p>国立情報学研究所・山地一禎 Kazutsuna Yamaji, NII, Japan</p>

	日本における電子出版の現状 E-publishing in Japan	日本電子出版協会・三瓶徹 Tohru Sanpei, JEPA, Japan
14:50-15:50	<p>第4部 パネルディスカッション「将来への展望: テクノロジーと国際標準」 Part 4: Panel "Prospects: Technologies and International Standardization"</p> <p>司会 Moderator : Jerry Leeson, Director Business Solutions, Education Services Australia</p> <ul style="list-style-type: none"> • ARIADNE: From Repository to the Cloud / Frans Van Assche, Secretary General, GLOBE • COMÈTE, an RDF-based Architecture for a Learning Objects Management System / Gilbert Paquette & Frederic Bergeron, LORNET, Canada • Learning Resource Exchange / Tien-Dung Le, European Schoolnet, EU • On the Search for Collaborative Open Educational Resources: Latin American Initiatives for a Global Improvement of Education / Xavier Ochoa, LACLO, Ecuador • ARIADNE and Learning Analytics / Erik Duval, ARIADNE, EU 	
15:50-16:50	<p>第5部 パネルディスカッション「将来への展望: 持続可能な流通モデルと付加価値サービス」 Part 5: Panel "Prospects: Sustainable models and New Value-added Services"</p> <p>司会 Moderator: Toru Iiyoshi, Professor, Kyoto University, Japan</p> <ul style="list-style-type: none"> • Quality Assurance in Open Education: Building Trust in OER with New and Old Academic Traditions / Gerard Hanley, MERLOT, USA • Australian Curriculum Connect Project / Jerry Leeson, Educational Services Australia, Australia • Cognitive Services of Learning in Taiwan / Chen-Yu Lee, III, Taiwan • Open Learning Networks: Building OER Practice Through Knowledge Sharing / Letha Goger, ISKME, USA • TCU-GLOBE: Enabling learning resources sharing in Thailand and throughout the GLOBE / Anuchai Theeraroungchaisri, TCU, Thailand 	
16:50	閉会の辞 Closing	早稲田大学理事・大学ICT推進 協議会理事・深澤良彰 Dr. Yoshiaki Fukazawa, Senior Executive Director, Waseda University and AXIES
17:30-	バンケット(有料)	
	ご挨拶	放送大学副学長・二宮皓 Akira Ninomiya, Vice-President, the Open University of Japan

4 部会の今後の展望

- ・ 学術・教育コンテンツの共有再利用・流通・電子出版に関する、産学官の情報共有の場として、年 4 回程度研究会を開催する。
- ・ 当初 2-3 年は、さまざまな機関や団体で進められてきた、これまでの挑戦や実践を互いに知るところから始め、知識の創生と学術・教育資源の効果的運用を実現する次世代の知識情報基盤の構築に向けて、産官学の視点から連携を考え知見と展望の共有を図る。
- ・ 将来的には、メンバーが参加できるパイロットシステムや次世代コンテンツ開発の実証実験プロジェクトを立ちあげる。
- ・ 必要であれば、国際標準化への対応も検討する。

5 大学 ICT 推進協議会への意見・要望等

【省略】